

対象年度	令和 2年度							総合計画実施計画策定及び行政評価シート				
事務事業名	北関東中学校野球大会開催事業							予算事業名	北関東中学校野球大会開催事業費			
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
			10	06	01	2001	経常経費					
総合計画体系	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文 4-3誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進(スポ ①スポーツ・レクリエーション活動環境の充実 2各種大会の開催							事業の区分	主要事業 重点事業			
	担当課係等								スポーツ振興課 スポーツ振興係			
事業期間	継続 (昭和25年度～令和 2年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
選手間の交流や参加中学校相互の親睦を深めるとともに、青少年の強健な体力と旺盛な気力を養い、心身の健全育成を図る。また、「する」スポーツに加え、「見る」スポーツ、「支える」スポーツの振興を図ることにより、ゆうきの生涯スポーツの向上に寄与する。							第2次世界大戦後の復興期に、少年達が少しでもスポーツをする機会を増やす目的として、昭和25年7月から開催された。また、開催にあたっては、市民から寄付のあった土地を、当時の野球愛好家達が手造りでグラウンドを整備し、第1回大会を迎えた。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
毎年7月26日～7月31日の6日間の会期で、市内4会場において、北関東中学校野球大会を開催する。 ・野球部員には、選手として活躍していただくとともに、一生に残る思い出を作ってもらえる場を提供する。 ・スポーツ愛好市民には、球場に足を運んでいただくためのPRを行う。 ・審判員及び中高生ボランティアには、支えるスポーツの醸成を図る。							茨城県、栃木県下の中学校野球部員 スポーツ愛好市民 市内野球審判員 中高生等ボランティア 【事業をとりまく環境の変化】 少子化や子どもたちの野球離れにより、野球部員が不足し、出場辞退や他の中学校と合同チームで参加する中学校が増加している。今後は、参加中学校の見直しを行う必要がある。 審判員、高校生ボランティアについては、毎年同人数の協力があり、必要人数は順調に確保されている。					
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				
第7 1 回北関東中学校野球大会の開催				第7 2 回北関東中学校野球大会の開催				第7 3 回北関東中学校野球大会の開催				

■事業費

		H30年度	R01年度				
財源内訳	国庫支出金	0	0				
	県支出金	0	0				
	地方債	0	0				
	その他	0	0				
	一般財源	2,549	3,061				
歳入計(千円)		2,549	3,061				
歳出内訳	節(番号+名称)		金額(千円)	金額(千円)			
	08	報償費	856	856			
	11	需用費	1,193	1,156			
	12	役員費	3	3			
	13	委託料	78	111			
	14	使用料及び賃借料	355	356			
	16	原材料費	64	64			
	19	負担金補助及び交付金	0	515			
	歳出計(千円)(A)		2,549	3,061			
	伸び率(%)			20.08			
備考	総合計画 123 ページ		予算書 181 ページ				

# 平成30年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	北関東中学校野球大会実行委員会の開催	回	目標	2.00	3.00	2.00
			実績	2.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	参加中学校数	校	目標	91.00	91.00	91.00
			実績	85.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	歴史と伝統ある大会であるとともに、「する」スポーツに加え、「見る」スポーツ、「支える」スポーツの振興に寄与している。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的とされ、行政で実施する意義がある一方、中体連専門部や連盟が実施主体となることも考えられる。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	実施主体と同様、手段についても検討すべきである。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	スポーツ協会と大会運営に精通した野球連盟からなる実行委員会で運営しており、大会運営に対するノウハウを持っている。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	市内中学校はもとより、茨城県・栃木県から参加を募っている。また、多くの市民が野球観戦に訪れている。しかし、行政主体で特定の競技の大会を主体的に開催している点から、一概に公平であるとは言えない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	今回で70回大会という歴史ある大会であり、前例にならう部分もある。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	野球連盟の協力により、大会の進行、運営がスムーズに行えている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
参加中学校相互の交流と体力増進、健全な心身の発達に寄与するとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として提供されている。運営面も実行委員会や野球連盟の試合運営方法が確立されており、事業の意図は達成されている。また、伝統ある大会のため、将来にわたり今後も継続していかねばならないが、少子化により参加校が減少している傾向にある。また、近年の夏場の酷暑により、熱中症が懸念されるため、大会の日程や規模の検討が必要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
大会期間を延ばし、休養日を設けることや、規模縮小の検討が必要である。			

## ■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 少子化の進行に伴い、部員数の不足による廃部や合同チームでの参加が多くなり、参加チーム数が減少傾向にある。本大会は戦後の混乱期に、青少年の現状と将来を危惧された先人達が立ち上げた大会で、本市にとっては特別な意味を持つ大会であることから、大会を取り巻く諸問題について積極的に取り組み、大会の継続を図っていく
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。